

「お米を愛情込めて育てています」

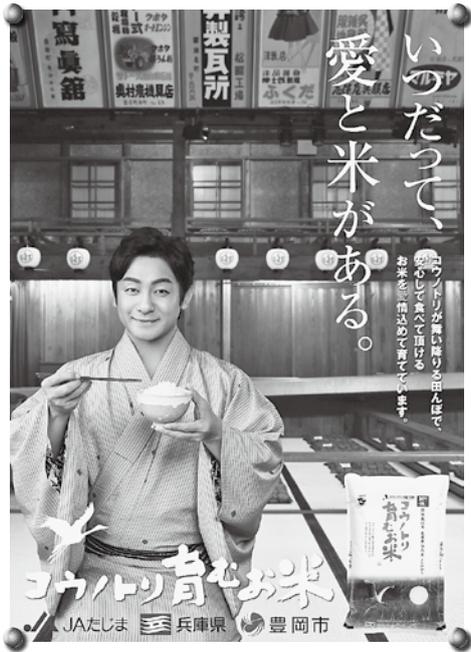
## 片岡愛之助さん「コウノトリ育むお米」PR

たじま農業協同組合は「コウノトリ育むお米」のイメージキャラクターに、歌舞伎役者の片岡愛之助さんを起用しました。

愛之助さんには、出石永楽館の歌舞伎公演に座頭として、平成20年から、毎年出演していただいています。昨年1月には、出石永楽館で開催した「コウノトリ放鳥10周年記念イベント」で、中貝市長とコウノトリ野生復帰の取組みやコウノトリ育む農法などにつ

いて対談。愛之助さんは、育むお米について「大変おいしいお米。イメージキャラクターになります」と話しました。キャッチコピーは「いっただって、愛と米がある」。ポスターやステッカー、のぼり旗を製作し、東京や京阪神などの販売店に設置しています。

「コウノトリ育むお米」は、生産技術も非常に高まっています。愛之助さんの力を借りて、さらに消費者の心を射止めます。



▲出石永楽館で撮影したポスター（B1判）

「魅力ある豊岡の企業を知り、豊岡で働く」

## 「兵庫豊岡Uターン就職企業研究会&交流会」開催

2月11日、昨年度に引き続き、大阪府で「兵庫豊岡Uターン就職企業研究会&交流会」を開催しました。

本市の企業の出展数は26社。参加した大学生らは、金融機関や建設業、旅館業などのブースで、企業概要などの説明を受けました。

また、本年度は、企業の若手社員らと軽食を取りながら、情報交換を行う交流会も実施。



▲企業担当者から説明を受ける参加者

「地域のネットワークでまちの異変を情報提供」

## 「地域における協力を促進する協定」締結

2月1日、市内他27郵便局（代表豊岡郵便局）と「地域における協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、郵便配達員らが、市内での業務中①道路損傷を発見したとき②不法投棄を発見したとき③市民の異変に気付いたとき等に本市に情報提供を行います。緊急を要する場合は、直接、警察や消防に通報します。

この広い豊岡にあって、郵

便局と本市は協力し、市民が安心して暮らせる地域づくりを進めます。



▲協定書に調印した濱嶋元一豊岡郵便局長(右)と中貝市長

「主な市政の動き」

### 1月

- 13日・豊岡市図書館未来プラン検討会議
- 14日・豊岡市消防本部消防出初式
- 19日・慶州市東川初等学校国際交流体験学習使節団来市（21日）
- 23日・豊岡市豪雪災害警戒本部設置
- 24日・但東地域豪雪災害警戒本部設置（30日）
- 29日・人権音楽とお話のつどい
- 30日・北近畿豊岡自動車道「八鹿日高道路」3月25日開通懸垂幕の掲示（3月31日）
- 31日・兵庫県消防防災航空隊合同冬山救助訓練

### 2月

- 1日・水銀「体温計・温度計・血圧計」拠点回収（3月31日）
- 4日・冬山遭難救助訓練
- 6日・豊岡市基本構想審議会災害時にトップがなすべきこと協働策定会議（千代田区）
- 11日・兵庫豊岡Uターン就職企業研究会&交流会
- ・城崎・竹野・日高・出石・但東地域に豪雪災害警戒本部設置

松の巢の上の鶴(コウノトリ)の親子を描く

明治・大正期の陶芸家 友田安清の絵画「鶴巢籠之図」を受贈

明治時代に出石焼の改良指導にあたった陶芸家の友田安清の日本画「鶴巢籠之図」が、芦屋市在住の末広史子さんから、本市に寄贈されました。

この絵画は、明治37年の春、現在の出石町福住の「出石温泉館乙女の湯」付近で、友田が絵師(雅号は金城九溪)として描いた作品です。松の巢の上で、親のコウノトリと4羽のひな。そして空を飛ぶ、もう1羽の親鳥が描かれています。



▲松の上のコウノトリの巣ごもり (絵の拡大)

末広さんは「これは出石に置かれるべき。絵のふるさとで、大事にしてもらえればありがたい」と語りました。

今後、この作品は、友田の他の作品と共に、市立美術館で、展覧会を開催する予定です。



▲絵画「鶴巢籠之図」を寄贈した末広さん(左)

市民の安全・安心を守る決意を新たに

「豊岡市消防本部消防出初式」挙行

1月14日、消防本部で、豊岡市消防本部消防出初式を挙行しました。

庁舎内で行った第一部の式典では、消防長が「職員一丸となって市民の安全・安心を守るため、強い決意を持って精進すること」と訓示。職員「の士気高揚を図りました。その後、播但地区消防職員意見発表会に出席する職員が

「親子で遊び学ぶ防災」と題し、自らの抱負やこれからの消防が果たすべき役割などの意見発表を行いました。

第二部では、多くの市民や来賓が見守る中、雪が深々と降り続く屋外で、息の合った勇壮な消防太鼓と、音楽に合わせ変幻自在に変化する放水演技を披露し、平成29年の平安を願いました。



▲音楽に合わせて変幻自在の放水演技

中貝市長の徒然日記 ⑪⑫

複雑さに耐える

冬の但馬は、気象の博物館です。晴れていたかと思つたら曇りになり、雨になり、みぞれに変わって雪が降り、また晴れたかと思つたら、虹がくつきりと浮かんでいる。

「ええい、白か黒かはつきりしろ！」と但馬に住む私たちは怒鳴つたりせず、その複雑さを受け入れ、その複雑さに耐え、時に楽しんできました。「雪は暖かい」とまるで通のようなことを言い、晴れ間の雪景色に「ほおつ」とため息をついてうっとり眺める余裕も身に付けてきました。

人生も同様です。カフカの「変身」のように朝起きたら巨大な虫になっていた、とまではいかににしても、理不尽なことが平気で起きます。が、その複雑さを事実として受け入れ、耐えながら、雲の切れ間に光を探そうにして生きていく他はありません。そのような態度を身に付けることが「大人になる」ということだと思えます。

グローバル化の進展で、世界中の人々が出会い、つながるようになってきました。豊岡でも、昨年は4万4千人の外国人宿泊客がありました。城崎国際アートセンターには、世界各国からアーティストがやってくるようになりました。しかし、私たちの町は、言葉や習慣、価値観の異なる人々と向き合い、複雑さに耐え、多様性を受け入れて楽しむという態度は、まだまだこれからです。言うほど簡単でもありません。多様性こそが活力の源泉と言っていたかの国でさえ、それを否定するトツプが出てきたくらいです。でも、豊岡にも可能性はあります。

最近、子どもたちが外湯で肌の色が黒い人、白い人と一緒になることが増えてきました。顔は日本人と同じなのに、聞いたことのない言葉が話す人とも出会うようになってきました。服には、社会的な地位や関係が乗っています。それを脱ぎ捨てた場でさまざまなの国の人々と出会う経験が、豊岡の子どもたちに何をもたらすのか、実に楽しみです。